

日中語の移動補助動詞構文の対照研究

A Contrastive Study of Motion-Verb Auxiliary Constructions in Japanese and Chinese

趙 蓉 俊 子
ZHAO Rongjunzi

This paper examines the grammatical characteristics and usage of motion-verb auxiliary constructions in both Japanese and Chinese. First, we review previous studies of Japanese and Chinese auxiliary verb constructions that contain motion verbs as auxiliaries. Particular focus is placed on their affirmative and negative forms and grammatical features, such as the position of the subject of the action or the scope of negation, and on such types of sentences where the object of movement is an inanimate noun. Next, motion-verb auxiliary constructions are classified into movement, sequential, simultaneous, and pseudo-simultaneous uses.

キーワード： 移動補助動詞構文，空間移動，時間推移，非恩恵

Keywords: Motion-verb auxiliary construction, Spatial movement, Time lapse, Malefactive

1. はじめに

移動補助動詞とは、「くる」「いく」(以下 V_2 とする)という移動動詞が、前項動詞(以下 V_1 とする)の「テ形」に後接し、例文 (1) の空間移動や (2) の時間推移などを表すものこのことを指す。なお、例文 (3) のような具体的な移動を含まず、非恩恵を表す場合もある。日本語の移動補助動詞構文は、「動詞のテ形+移動補助動詞」という形式を含む構文である。

(1) 弁当を買ってくる。

(2) ぼくはミヤコさんにずっとここで暮らしていくのかと尋ねてみた。

(『日の湖月の森』)

(3) 不況で、親会社が工賃を値切って来た。

(坂原 1995: 110 例(6))

例文 (1)(2) では、 V_1 のテ形「買って」「暮らして」は補助動詞「くる」「いく」とつながり、移動補助動詞構文を構成し、それぞれVてくる構文、Vていく構文と呼び分ける。

中国語の移動補助動詞構文は、「動詞+補助動詞」という形で表す。例えば、例文 (4)(5) のように、移動補助動詞“来”「くる」、「去」「いく」が V_1 “借”「借りる」、「送」「送る」に後接して構成し、それぞれ“V 来”構文と“V 去”構文と呼ぶ。

(4) 小张 从 唱片店 借-来 一 张 唱片。
 (張さん から レコード店 借りる-くる 一 CL レコード)
 「張さんはレコード店から一枚のレコードを借りてきた」

(5) 他 送-去 一 本 书。
 (3SG 送る-いく 一 CL 本)
 「彼が一冊の本を送っていった」

本論文では構文的・意味的な観点から、日中両言語の移動補助動詞構文の相違点を考察する。本論文は以下のように構成され、まず2節では、日中語の移動補助動詞構文に関する先行研究を概観する。そして、3節では日中語の移動補助動詞構文の文法的特徴に焦点を定める。さらに4節では、日中語の移動補助動詞構文の用法に着目する。最後に、5節において日中両言語の移動補助動詞構文を対照することで、本論文の内容をまとめる。

2 移動補助動詞構文に関する先行研究

本節では、日本語と中国語の移動補助動詞構文に関する先行研究を概観する。

(i) 日本語の移動補助動詞構文に関する先行研究

移動補助動詞に関する先行研究は、主に**空間移動と時間推移**をめぐって考察を行ってきた。例えば、日本語記述文法研究会 (編) (2009)、近藤 (1984)、山本 (2007)、森田 (1994)、坂原 (1995) などがある。

まず、日本語記述文法研究会 (2009: 130) によれば、V てくる構文とV ていく構文には、空間的移動とアスペクト的な意味機能を表す用法がある。また、近藤 (1984: 30-32) によれば、<空間的なもの>の下位分類は、(6) のように示され、<時間的なもの>は、(7) のようになる。

(6) ア 通常型	a ……しながらゆく/くる	V_1 :方向動詞かつ継続動詞
	b こちら/あちらへ……する	V_1 :方向動詞かつ瞬間動詞
イ 逆転型	……してからゆく/くる	V_1 :(動作主のある)すべての動詞

- (7) ア 変化型 a しいだいによく……になる V₁:無意志動詞かつ継続動詞
 b(ある時に)……となる V₁:無意志動詞かつ瞬間動詞
 継続型 ずっと……する V₁:意志動詞

そして、山本 (2007: 68-69) は、以下の図 1 のように、V てくる構文と V ていく構文は本動詞用法、空間的方向性を表すもの、アスペクト的意味を表すものやその他という 4 つの用法があるとしている。

(3) 「～テイク」「～テクル」の意味

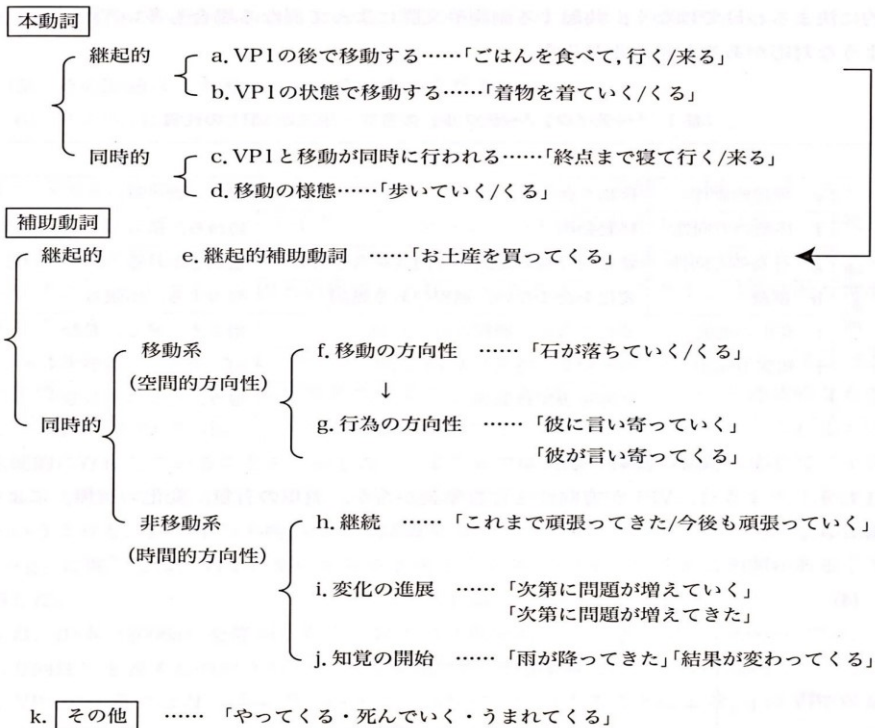


図 1 (山本 2007: 69 より)

森田 (1994: 90-97) では、V てくる構文と V ていく構文は空間的、時間的な用法がある」と指摘し、移動を表す場合には、例文 (8) の順次性、(9) の平行性、(10) の状態性や (11) の複合動作というものがある。さらに、時間を表す場合には、例文 (12) の継続、例文 (13) の発生、例文 (14) の「死んで行く」のような変化の進行・開始というものがある。

- (8) トラックが積荷を落として行った。 (森田 1994: 90)
 (9) 叔父の祖母が赤児を抱いて来た。 (森田 1994: 91)

- (10) 黙々と揺られて行った。 (森田 1994: 92)
- (11) 女中の登音が、廊下を遠ざかっていった。 (森田 1994: 93)
- (12) 私は今日まで皆に軽蔑されて来ました。 (森田 1994: 93)
- (13) 何処からか腹力が湧いてくるやうな頼もしい蛮声だった。 (森田 1994: 93)
- (14) 次々と相手に迎へてやった雄が、なぜ皆死んで行くにもかかはらず、
(森田 1994: 95)

また、坂原 (1995) では、V てくる構文の用法を単なる等位構造のテ形接続、複合動詞化、受益、被害や始動・継続アスペクトに分けて議論される。本論文の4節では、坂原 (1995) に従って日中語の移動補助動詞構文の用法を考察していく。

V てくる構文の中心的な用法以外に、例えば、益岡 (1997:186-187) では、例文 (15)(16) は、異なる時空間で起こった事態を表現の場に結びつける働きをしているものであると述べている。

- (15) 先週、琵琶湖で水上スキーを楽しんできた。 (益岡 1997:186 例(22))
- (16) 出張先で大事な書類をなくしてくるなんて。 (益岡 1997:186 例(23))

そして、V てくる構文の**非恩恵的な用法**に関しては、主に筒井 (2019)、Otsuka (2019)、山本 (2000)、住田 (2011) などがある。

筒井 (2019: 127) では、V てくる構文の感情表現、特に〈不満・愚痴〉及び〈自分の経験の語り〉という言語行動に着目し、「〈不満・愚痴〉については、V-テクルが不満表明の発話で用いられることで、話者と話者以外の人物との対立する立場を表し、他者の行為の影響が話者に及んだ結果、話者が他者の行為の理不尽さに対して不満や不快感、怒りなどの否定的な感情を抱いていることを表現していた。また〈自分の経験の語り〉では、経験を語り始める発話においてV-テクルが用いられ、聞き手に対して以前話題にした話の続きを聞いてほしいという気持ちを表現していた」と述べている。この点に関しては、浜田 (1989: 53) も以下のように指摘している。例文 (17) のように、意味要素〈到達点〉を介して、「経験の共有」と呼ばれる意味へ拡張される。

- (17) [聞手に向かつて]きのう歌舞伎を見てきました。 (浜田 1989: 53 例(31))

さらに、Otsuka (2019: 70) では、例文 (18) は能動態で事態評価は中立的であるとされるが、例文 (19) は逆行態の～テクルなのでネガティブな事態評価と友人へのネガティブな心的態度が指標される。

(18) そんなある日、「このウサギ、かってくれる?」と、友だちのじゅんくんが言いました。
(Otsuka 2019: 70 例文 (7b))

(19) そんなある日、「このウサギ、かってくれる?」と、友だちのじゅんくんが言ってきました。
(Otsuka 2019: 70 例文 (7c))

また、山本 (2000: 18) によれば、以下の例文 (20)(21) は話し手が他者と「対抗関係にある」とみなす。例文 (22a) のように「彼が私を見る」ではなく、(22b) のように「彼は私をじろじろ見る」というように彼の行為に対して「私」が快く思っていないことを明示しないと不適格となる。さらに、例文 (23) から事態が話し手にとって不快なものであることがわかる。

(20) (野球で)相手チームは初回からがんがん打ッテキタ。(山本 2000: 18 例(37))

(21) 隣の人が「うるさい」と文句を言ッテキタ。(山本 2000: 18 例(38))

(22) a. * 彼は私を見テクル。(山本 2000: 18 例(40a))

b. 彼は私をじろじろ見テクルのでいやだ。(山本 2000: 18 例(40b))

(23) a. * 誉め言葉を言ッテキタ。(山本 2000: 18 例(42c))

b. 嫌みを言ッテキタ。(山本 2000: 18 例(42d))

住田 (2011: 91) によれば、例文 (24a) と (24b) を比較すると明らかに V てくる構文の (24b) の方に嫌悪感¹が感じられ、テクル形式が動詞に付与されることによってもたらされたものである。

(24) a. 太郎が(私の)手を触った。(住田 2011: 91 例(87a))

b. 太郎が(私の)手を触ってきた。(住田 2011: 91 例(87b))

(ii) 中国語の移動補助動詞構文に関する先行研究

中国語の“V 来”“V 去”構文に関する先行研究は、丸尾 (2005)(2019)、ラマール・クリスティーン (2008) や荒川 (2015) などがある。

丸尾 (2019: 56) では、以下のように、「動詞+方向補語」は V_{xy} 、 V_x 、 V_y のいずれかの組み合わせで表されるものであると指摘している。

¹ 住田 (2011: 90) では、「嫌悪感とは受動表現に見られるような被害とまではいかないものの、それに準ずる心理的、精神的なストレス、圧迫感を指す」と述べている。

(25)x:上(上がる;のぼる),下(下がる;下りる),進(入る),出(出る),回(戻る),过(過ぎる),起(上がる)
y:来(来る),去(行く) (丸尾 2019: 56)

さらに、丸尾 (2005:90-94) では、主としてアスペクトを担うものは「結果・状態」を表す“V 下来”、「行為自体の持続」を表す“V 下去”および「新たな事態の出現」を表す“V 起来”の3種類となると述べ、なお、「領域の移動に関わる“出来”“过来、过去”の派生義については、次のように物理的移動に準じるものとみなすことができる」と主張している。本論文では、丸尾 (2005)(2019) に基づいて考察を行う。

(26) “V 出来”(V₁は“看”「見る」「写」「書く」)の表す「識別」や「完成」の意味は出現義に基づく。

(27) “V 过去”(V₁は“骗”「騙す」など)の表す「完成」の意味は通過義に基づく。

(28) “V 过来”(V₁は“醒”「覚める」、「活」「生きる」、「明白」「分かる」、「恢复」「回復する」など)と“V 过去”(V₁は“晕”「目がくらむ」、「死」「死ぬ」、「睡」「寝る」、「昏迷」「ぼうっとなる」など)の表す「正常-非正常」という対立する概念にも、心理的な境界が想定できる。

また、ラマール・クリスティーン (2008: 110) によれば、空間的位置変化を表す「方向補語」は状態変化を表す「結果補語」の一種であり、その文法機能も同じである。杉村 (2000: 151) も中国語の「方向補語」は結果補語と同じく<行為+結果>型の表現であると指摘している。

荒川 (2015: 180-181) では、「中国語の移動動詞は、他の動詞に結合するとき、その動詞が自動詞であれば、移動動詞は動作主体の方向を示すが、その動詞が他動詞の場合は、基本的には目的語の方向を示す。例えば、“走来”(歩いてくる)や“走出来”(歩いて出てくる)で“来”“出来”するのは動作主体であるが、“寄去”(郵便でおくる)“拿出来”(とりだす)で、“去”“出来”するのは目的語の方だということになる」と述べている。

(iii) 日本語と中国語の移動補助動詞構文の対照に関する先行研究

杉村 (2000)、ラマール・クリスティーン (2008)では、日本語と中国語の移動補助動詞構文を対照している。

杉村 (2000) は、中国語の“走”「歩く」と日本語の「歩く」について、移動様態を表す動詞が中国語で表示され、日本語では表示されないとしている。

ラマール・クリスティーン (2008: 132) では、下の表1のように、「人を呼んで戻らせる場面では、日本語では経路の情報を主要部の使役移動動詞「戻す」で表現し、「呼び戻す」という複合動詞を用いるが、これは中国語の“叫回来”(呼ぶ+戻る+来る)と対照的である」と述べている。

[表1] 移動事象のヴォイスからみた日中の対応(ラマール・クリスティーン 2008: 132)

	日本語	関係	中国語
自律移動文	家に歩いて帰る, 歩いて帰ってくる	=	走回家, 走回来
使役移動文	呼び戻す【V ₂ =使役動詞】(#呼んで戻る)	≠	叫回家, 叫回来【V ₂ =使役動詞】

3 日中語の移動補助動詞構文の文法的特徴

本節では、日中語の移動補助動詞構文の文法的特徴を明らかにする。

まず、ラマール・クリスティーン (2008: 117) によれば、例文 (29) のような自然受動文²では、質のいい古い針を持ってくる運び手は文中に現れなく、位置変化を被る移動対象は無生物名詞である。これに対し、日本語では、例文 (30)-(34) のように、「V₁の受動の形式+てくる」で表す場合がある。

(29) 针 換-来 了。

(needle exchange-come PRTCS)

「針は替わった。/替わりの針が来た」 (ラマール・クリスティーン 2008: 117 例(7c))

(30) 脏物 冲-去 了。

(汚いもの 水を注いで洗う-いく 了 1+2)

「汚いものは洗われた」

(範立珂 2012: 20 例9'グロス は筆者による加筆)

(31) ペットボトルが拾われてきた。

(朱茜 2018: 24 例文(17))

(32) 昨日の診察結果が持ってこられた。(昨日の診察結果を持ってきた)

(朱茜 2018: 24 例文(18))

(33) 太郎から、本が送られてきた。

(34) 花子は、太郎によりある国から売られて来た。

² ラマール・クリスティーン (2008: 116) では、自然受動文とは、「位置変化を被る移動物 y は [yVR] のように主語の位置に現れ、動作主は文中に現れないタイプの文である」と述べている。

(坂原 1995: 124 例(91b))

そして、否定に関して、フランス・ドルヌ (1987: 46) はVてくる構文の肯定形と否定形との非対称性を述べていて、「買って来た」は「買った、そして来た」と説明されるわけであるが、否定形にしてみると成立しない。例えば、例文 (35) のように、否定は「買う」にかかるのであって、「いく」にはかからない。それは「ケーキを買わないでいく」という意味になる。

(35) ケーキを買っていかない。

(フランス・ドルヌ 1987: 46 例(15))

これに対し、中国語は例文 (36a) のように、肯定形は“V去”構文で表さなく、例文 (36b) の連動文で表現する。さらに、否定形の場合は、例文 (37) のように、“不”は“去买”の前に置き、“去买蛋糕”「ケーキを買いに行く」という事態全体の否定となる。

(36) a. * 明天 买-去 蛋糕。
(明日 買う-いく ケーキ)

b. 明天 去 买 蛋糕。
(明日 いく 買う ケーキ)
「明日ケーキを買いに行く」

(37) a. * 明天 不 买 去 蛋糕。
(明日 NEG 買う いく ケーキ)

b. * 明天 去 不 买 蛋糕。
(明日 いく NEG 買う ケーキ)

c. 明天 不 去 买 蛋糕。
(明日 NEG いく 買う ケーキ)
「明日はケーキを買いにいかない」

さらに、日中語の移動補助動詞構文は1つの形式に2つの用法を備える。丸尾 (2005: 177) では、 V_1 が(非移動的な)動作動詞、“去”が主体の移動方向を表す場合、“V去”形式は以

下のような2つの意味を備え、例文 (38a) は対象の移動を伴った継起的な行為を表す動補構造³である。(38b) は「～シニイク」という目的関係にある連動構造である。

(38) 买去: a. 買っていく【継起的】 剩下的苹果都被他买去了。

「残ったリンゴは全て彼に買っていかれた」

b. 買いに行く【目的関係】 甲: 没有酱油怎么办? 「酱油がないよ、どうするの?」

乙: 让他买去吧。(→让他去买吧。)

「彼に買いに行かせよう」

これに対し、坂原 (1995: 122-123) によれば、同じ表現「降って来る」に異なる解釈ができる。(39a) では「来る」は方向づけの「来る」であるが、(39b) は始動アスペクトの「来る」と解釈できる。「聞こえて来る」についても、(40a) は方向づけたが、(40b) には「聞こえ始めた」の解釈がある。

(39) a. 雨が空から降って来た。 (坂原 1995: 123 例(80a))

b. 雨が先ほどから降って来た。 (坂原 1995: 123 例(80b))

(40) a. 音が隣の部屋から聞こえて来る。 (坂原 1995: 123 例(81a))

b. 電話の故障が直り、ようやく君の声が聞こえて来た。(坂原 1995: 123 例(81b))

ここまでの内容を[表2]でまとめた。[表2]は日中語における移動補助動詞構文の文法的特徴の相違点と類似点を示したものである。日中語の移動補助動詞構文は、動作主の位置、移動対象が無生物の場合、肯定形と否定形、1つの形式に2つの用法があるという点で異なる。

³ 丸尾 (2010: 197) では、「補語とは、動詞または形容詞の後に置かれて、動作・行為の結果や状況について補足説明する成分です。英文法でいう補語(主語や目的語について補足説明するもの)とは異なります」と述べている。続けて、丸尾 (2010: 141-142) によれば、1つの主語に対する述語の中に動詞が連なった文を「連動文」という。連動文では「(V₁とV₂を並べて)続いて起こる動作を表す」「(V₁がV₂の)目的を表す」という2つのような意味が表される。さらに、丸尾 (2005: 21) では、中国語の様態・方式を表す手段について、以下のように示されている。

- | | | |
|-----------------------------------|------------------|--------|
| ① V ₁ +V ₂ | 例: 坐车去「車に乗っていく」 | 【連動構造】 |
| ② V ₁ 着+V ₂ | 例: 跑着去「走っていく」 | 【連動構造】 |
| ③ 様態移動動詞+方向動詞 | 例: 走进来「歩いて入ってくる」 | 【動補構造】 |

[表 2] 日中語の移動補助動詞構文の文法的特徴

	日本語	中国語
移動対象が無生物の場合	V ₁ の受動の形式+てくる	自然受動文
肯定形と否定形	V ていく構文の否定形はV ₁ にかかるが、V ₂ にはかからない	肯定形は“V 去”で表さず連動文で表現する。“不”は“去买”の前に置き、事態全体の否定となる
1つの形式に2つの用法がある	V てくる構文には空間移動と始動アスペクトの用法がある	“V 去”構文には動補構造と連動構文を備える

4 日中語の移動補助動詞構文の用法

本論文では、趙蓉俊子 (2020) に従い、日中語の移動補助動詞構文を空間移動と時間推移という2つの用法に分けた上で、例文 (41) のような非恩恵の用法も考察する。

(41) 銀行の顧客の請求を無視してきた。 (『頭取室』)

例文 (42) は移動対象の移動を表すのに対し、(43) と (44) は移動主体が移動する。ただし、(43) は食べた後の移動を表すのに対し、(44) は歩くことと移動が同時である。本節では、今仁 (1990) や坂原 (1995) を参照し、これらをそれぞれ、移動用法(42)、継起用法(43)、同時用法(44)と呼ぶ。

(42) まくわ瓜の代わりに西瓜を送ってきた。 (『金賢姫全告白』)

(43) 彼女が昼すぎに来て、食べてきたと言った。

(44) 女たちがわざわざ遠くから歩いてきたというのに。 (『ダイヤモンドと火打ち石』)

また、「てくる・ていく」は「腐る、守る」に後続してアスペクト形式となるが、それぞれの用法が違ってくる。(45) は主体変化、即ち果物の変化を表すが、(46) は変化するものではなく、伝統の保持という継続を表す。そこで、本論文では、坂原 (1995) に従い、時間推移の (45) を始動アスペクト、(46) を継続アスペクトと呼ぶ。

(45) 果物が腐ってきた。

(46) 我々は、伝統を守ってきた。

4.1 空間移動

移動補助動詞構文の空間移動用法には、動作主体が移動する場合と動作対象が移動する場合などがある。まず、動作対象が移動する場合に関して、例文 (47) のように、動作主体「彼」も移動対象「唐揚げ」も両方とも移動する。そして、例文 (48) のように、動作主体「彼」は移動せず動作対象が移動する。さらに、例文 (49) のように、動作対象は電話、伝言といった抽象物の場合もある。

(47) 彼が私に唐揚げを買ってきた。

(48) 彼が私に何枚もの写真を送ってきた。

(49) a. 彼が私に電話をしてきた。

b. 太郎が花子の伝言を転送してきた。

(坂原 1995: 123 例(89))

そして、動作主体が移動する場合に関して、例文 (50) のように、「彼」が走っている様態を表す。なお、例文 (51) のように、参照点「名古屋」との距離の変化を表現する。さらに、例文 (52) の V_1 が身体接触動詞「ぶつかる」もある。庵他 (2000: 119) によれば、例文 (53)(54) のように、「(においが)する、聞こえる」に V てくるが後続すると、知覚情報の到達を表す。

(50) 彼が走っていった。

(51) 名古屋が近づいてきた。

(52) 彼がぶつかってきた。

(53) 隣の家から変なにおいがしてきました。

(庵他 2000: 119 例(17))

(54) お寺から鐘の音が聞こえてきます。

(庵他 2000: 119 例(18))

4.1.1 移動用法

まず、今仁 (1990: 58) によれば、移動用法には、対象物の輸送・移動に関する動詞(送る、電話をかける、落とす)、及び動作を表す動詞(座る、笑う)が属する。なお、 V ていく構文では、例文 (55)(56) のように、内容的には一回きりの単発的な事態を表す文のときは、文法性が落ちる。これに対し、中国語の“ V 去”構文は例文 (57)(58) のように、一回きりの単発的な事態を表せる。さらに、例文 (58) のように“ V 去”構文を用いない場合もある。

(55) * 私は、昨日、荷物を一つ、友人に送っていった。

(今仁 1990: 58)

(56) * 課長が、さっき、先方に文句を言っていきました。

(今仁 1990: 58)

- (57) 我 昨天 把 一 个 包裹 给 朋友 寄-去 了。
 (1SG 昨日 PREP 一 CL 荷物 PREP 友人 送る-いく 了 1+2)
 「私は昨日、一つの荷物を友人に送った」

- (58) 科长 刚刚 向 对方 抱怨 了。
 (課長 さき PREP 先方 文句を言う 了 1+2)
 「課長はさき先方に文句を言った」

また、今仁 (1990: 59) によれば、「てくる」は何らかの移動(動作主から非具体物の移動、つまり、発話者への影響)があるはずである。ところが、例文 (59)(60) の「笑う、座る」は動作主の個人的な動作であり、そのこと自体は他者にほとんど影響を及ぼさない。しかし、話し手に精神的な影響が及んだのは明らかである場合、例文 (61)(62) のように、文法性が高まる。一方、中国語ではV₁が“笑”「笑う」、「坐”「座る」の場合、例文 (63) の“V 下来”構文と例文 (64) のように“V 起来”構文で表すことができる。

- (59) * 彼女は、そのとき、笑ってきたいった。 (今仁 1990: 59 例(43))
 (60) * 彼女が、ようやく、座ってきたいった。 (今仁 1990: 59 例(44))
 (61) あいつが最初に俺に腹を立ててきたんだ。俺が悪いんじゃない。
 (62) いきなり泣いてきたんで、こっちも意地になってしまった。

- (63) 她 终于 坐-下-来 了。
 (3SG ようやく 座る-下がる-くる 了 1+2)
 「彼女が、ようやく腰を下ろした」

- (64) 她 那时 笑 了 起-来。
 (3SG そのとき 笑う 了 1 起こる-くる)
 「彼女は、そのとき笑い始めた」

4.1.2 継起用法

坂原 (1995: 117) によれば、継起用法とは、「V の表わす事態が先に起き、「来る」の表す移動がそれに続く」という用法である。往復運動の場合は、例文 (65) のように、話し手が帰ってくるという情報を含む。これに対し、中国語の“V 来”構文は、例文 (68) のように、連動文で表す場合が多い。

(65) パンを買って来る。 (坂原 1995: 117 例(44))

(66) 我 买 面包 回-来。
(1SG 買う パン 帰る-くる)
「パンを買って来る」

(67) パンを買いに行つて来る。 (坂原 1995: 117 例(45))

(68) 我 去 买 面包 回-来。
(1SG いく 買う パン 帰る-くる)
「パンを買いに行つて来る」

坂原 (1995: 117-118) では、例文 (65) と (67) は同じ解釈になるが、統語的には同じではない。例文 (69)(70) のように、(67) には目的地「～に」を付けられるが、(65) には「行く」という推論された移動があつても、目的地は付けられないと指摘している。これに対し、中国語の“V来”構文は、例文 (71) も (72) の両方とも、目的地“(从)面包店”「パン屋から」を付けられる。

(69) * パン屋にパンを買って来る。⁴ (坂原 1995: 117 例(44'))

(70) パン屋にパンを買いに行つて来る。 (坂原 1995: 117 例(45'))

(71) 我 从 面包店 买 面包 回-来。
(1SG から パン屋 買う パン 帰る-くる)
「パン屋からパンを買って来る」

(72) 我 去 面包店 买 面包 回-来。
(1SG いく パン屋 買う パン 帰る-くる)
「パン屋にパンを買いに行つて来る」

さらに、坂原 (1995: 118) では、継起用法の V_1 はそれ自身の場所副詞や継続の時間副詞を持つことができる。例文 (73) では「公園」も「30分」も V_1 「走る」を修飾し、(74) の時点を表す時間副詞も、太郎が渋谷で花子にあつた時刻で、「来た」時刻でないと解釈できると述べている。

⁴ 坂原 (1995: 118) では、「パン屋にパンを買って来るなんて、バカな奴だな、おまえは。」という例文のように、一方向の移動に解釈すれば「パン屋」は、「来る」の目的地になるので許容できるようになると指摘し、「疑似的な同時性の用法」であると述べている。

(73) 太郎は、公園で 30 分間走って来た。 (坂原 1995: 118 例(46))

(74) 太郎は、6 時に渋谷で花子にあって来た。 (坂原 1995: 118 例(47))

一方、例文 (73) に対応する中国語は、例文 (75) で示すように、“V 来” 構文を使わず、 V_1 だけをを用いる文になる。この場合、「30 分」は V_1 だけを修飾する。また、例文 (76a) のように、時間副詞は張さんが渋谷で王さんに会った時刻であるが、例文 (76b) の連動文の場合、時間副詞は張さんが来る時刻か王さんに会う時刻か分からず、情報量は少ない。

(75) 太郎 在 公園 里 跑 了 30 分钟 了。
 (太郎 在 公園 中 走 了 1 30 分 了 1+2)
 「太郎は公園で 30 分も走っているんだ」

(76) a. 小张 6 点 在 涩谷 见到 了 小王。
 (張さん 6 時 で 渋谷 見かける 了 1 王さん)
 「張さんは 6 時に渋谷で王さんを見かけた」

b. 小张 6 点 来 涩谷 见 小王。
 (張さん 6 時 くる 渋谷 見かける 王さん)
 「張さんは 6 時に渋谷へ王さんに会いにくる」

4.1.3 同時用法

同時用法とは、坂原 (1995: 119) によれば、例文 (77) のように、 V_1 の生起と移動「来る」が同時であるときは、 V_1 は移動の様態を表わす修飾句である。「来る」の主語は、同時に V_1 の意味的主語でもある。中国語では、 V_1 と V_1 の間に“着”の介入ができる。なお、例文 (79) のように継続の時間副詞を伴う例がある。これに対し、中国語は例文 (80) のように、“V 来” 構文を用いない。

(77) 太郎が走って来た。 (坂原 1995: 119 例(54))

(78) 太郎 走 着 来 的。
 (太郎 歩く 助詞 くる 助詞)
 「太郎が走って来たんだ」

(79) 私は、でこぼこ道を 2 時間も馬車に揺られて来たので、食欲がない。
 (坂原 1995: 120 例(65))

- (80) 我 在 颠簸 的 路上 坐 了 两 个 小时 摇摇晃晃 的 马车。
 (1SG で でこぼこ GEN 道 乗る 了 1 二 CL 時間 よろよろする GEN 馬車)
 「でこぼこ道を2時間かけてよろよろしている馬車に乗ってきた」

今仁 (1990: 62) によれば、例文 (81) のように、「友達と」という前置詞句を伴った場合、同時用法は前置詞句で表されているもの(友達)も必ず同時に移動するのに対し、例文 (82) の継起用法の方は「友達」と酒を飲んで別れたかもしれないし、一緒に戻ったのかもしれない。一方、これに対応する中国語は例文 (83) のように、“和朋友”「友達と」という前置詞句を伴った場合、「彼」は「友達」と必ずしも同時に移動するとは限らない。が、例文 (84) は「友達」と一緒に歩いて戻ったということである。

- (81) 彼は、友達と一杯飲んできた。 (今仁 1990: 61 例(63))

- (82) 彼は、友達と歩いてきた。 (今仁 1990: 62 例(64))

- (83) 他 和 朋友 喝 酒 回-来 了。
 (3SG と 友達 飲む お酒 帰る-くる 了 1+2)
 「彼は友達とお酒を飲んできた」

- (84) 他 和 朋友 走 着 回-来 了。
 (3SG と 友達 歩く 助詞 帰る-くる 了 1+2)
 「彼は友達と歩いてきた」

さらに、今仁 (1990: 62) によれば、移動対象の「ベッド」は、継起用法では必ずしも移動主体と共に移動するとは限らない。しかし、これが同時用法の「運ぶ」になると、「ベッド」は必ず移動主体と共に移動する。一方、中国語の“V 来”構文を用いた例文 (87) において、移動対象は移動主体と共に移動するかどうかは判断しにくい、発話時点で話し手の位置に到達した。なお、例文 (88) の移動対象の「ベッド」は、移動主体と共に移動するかもしれないかという2つの場合がある。

- (85) デパートで、ベッドを買ってきた。 (今仁 1990: 62 例(65))

- (86) 運送屋が、ベッドを運んできた。 (今仁 1990: 62 例(66))

(87) 我 从 百货店 买-回-来 一 张 床。
 (ISG から デパート 買う-帰る-くる 一 CL ベッド)
 「私はデパートからベッドを買ってきた」

(88) 我 在 百货店 买 了 一 张 床。
 (ISG で デパート 買う 了 1 一 CL ベッド)
 「私はデパートでベッドを買った」

さらに、坂原 (1995: 120) によれば、疑似的同時用法とは、言語化されていない命題が、語用論的推論により、あたかもすでに言語化されているかのように扱われるものである。坂原 (1995: 120) では、(89) のように、「買う」は事件の生起場所を表す副詞を持てるが、起点の場所副詞を持ってない。ところが、(91) のように、「買ってくる」は両方が可能であると述べている。一方、中国語は例文 (90) のように、「在”+場所」も「“从”+場所」の両方とも使える。

(89) a. 太郎は、浅草で雷おこしを買った。 (坂原 1995: 120 例(66a))
 b. * 太郎は、浅草から雷おこしを買った。 (坂原 1995: 120 例(66b))

(90) a. 小王 在 超市 买 了 点心。
 (王さん で スーパー 買う 了 1 お菓子)
 「王さんはスーパーでお菓子を買った」

b. 小王 从 超市 买 了 点心。
 (王さん から スーパー 買う 了 1 お菓子)
 「王さんはスーパーからお菓子を買った」

坂原 (1995: 120) によれば、例文 (91a)(91b) はどちらも、太郎が浅草で雷おこしを買い、それを持ってやって来たという事態を指せると指摘し、例文 (91b) にはこの解釈しかないが、(91a) は、太郎が浅草で買った雷おこしを途中で食べてしまうなり、人にやるなりして、雷おこしは持たずにやって来たという事態でも使える。つまり、起点のある (91b) では、太郎は目的地まで雷おこしを持って移動する必要があるが、厳密に継起用法に解釈された (91a) では、太郎は雷おこしを持って移動する必要はない。また、(91b) の起点「浅草から」は、買うこと自体を修飾しているのではなく、買うことから導き出せる結果との

関連で使われている。つまり、「太郎が雷おこしを買った」から、「太郎が雷おこしを手に入れた」が推論でき、さらに、太郎がその雷おこしを持って移動する可能性がありうる。(91b) はおおよそ (92) と同じ解釈になる。

(91) a. 太郎は、浅草で雷おこしを買って来た。 (坂原 1995: 120 例(67a))

b. 太郎は、浅草から雷おこしを買って来た。 (坂原 1995: 120 例(67b))

(92) 太郎は、浅草で雷おこしを買って、それを持ってやって来た。

(坂原 1995: 120 例(68))

これに対し、中国語は (93a) のように、「在」+場所」は“V 来”構文で用いず、「从」+場所」を使う。さらに、例文 (93b) のように、中国語の“V 来”構文では、移動対象「お菓子」は話し手のところに到達する。

(93) a. * 小王 在 超市 买-来 了 点心。

(王さん で スーパー 買う-くる 了1 お菓子)

(意味:王さんはスーパーでお菓子を買ってきた)

b. 小王 从 超市 买-来 了 点心。

(王さん から スーパー 買う-くる 了1 お菓子)

「王さんはスーパーからお菓子を買ってきた」

4.2 時間推移

坂原 (1995: 128) では、「来る」が表すアスペクトには2種類ある。一つは事件の無変化の同質的継続を表す継続アスペクトであり、もう一つは変化の出現を表す始動アスペクトである」と述べている。坂原 (1995: 128) によれば、いずれのアスペクトの場合も、 V_1 は継続動詞である。瞬間動詞の場合、例文 (94b)(95b) のように事件の複数性あるいは繰り返しのより、2次的に継続動詞化する必要がある。「死ぬ」は「生きている」から「死んでいる」への変化を表す有限界動詞だが、程度の変化がなく、さらに継続動詞でさえないので、(95a) のようにアスペクト動詞の「来る」と共起できない。

(94) a. * 太郎はチフスで死んで来た。 (坂原 1995: 128 例(128a))

- b. 多くの人がペストで死んで来た。 (坂原 1995: 128 例(128b))
 (95) a. * 私の部屋の電気がついて来た。 (坂原 1995: 128 例(130a))
 b. 広場の街灯がだんだんついて来た。 (坂原 1995: 128 例(130b))
 一方、中国語では、例文 (96)(97) のように、事件の複数性も単数性も文が成立するが、 V_1 が“死”「死ぬ」の場合、“V 来”構文で表さない。

- (96) a. 太郎 死于 伤寒。 b. 许多人 死于 瘟疫。
 (太郎 …で死ぬ チフス) (たくさん 人 …で死ぬ チフス)
 「太郎はチフスによる死を遂げた」 「たくさんの方はチフスによる死を遂げた」

- (97) a. 我 房间里 的 灯 亮 了 起来。
 (1SG 部屋 中 GEN 電気 光る 了 1 起こる-くる)
 「私の部屋の中の電気がつき始めた」

- b. 广场上 的 路灯 逐渐 亮 了 起来。
 (広場 上 GEN 街灯 だんだん 光る 了 1 起こる-くる)
 「広場の街灯がだんだんついて来た」

なお、坂原 (1995: 129) によれば、例文 (98) の植物の死「枯れる」はその緩慢性のために継続動詞の解釈も可能で、「くる」は始動アスペクトに解釈される。「死ぬ」も動物の個体の死には中間段階はないが、器官レベルでは程度のある変化の解釈ができるので、例文 (99) は許容される。さらに、例文 (100) のように、細胞レベルでは、人間は一度に死ぬのではなく、徐々に死んでいる。(100) できえ始動アスペクトの解釈で許容できる。例えば、臓器移植のために新鮮な臓器を必要としているのに、何かの不具合で臓器摘出ができずに焦っている医者が発言といった状況である。

- (98) サボテンが枯れて来た。 (坂原 1995: 129 例 (132))
 (99) 肝臓がだんだん死んで来た。 (坂原 1995: 129 例 (133))
 (100) 太郎が、だんだん死んで来た。 (坂原 1995: 129 例 (134))

これに対し、植物の死「枯れる」に対応する中国語は、例文 (101a)(101b) のように、「V+了 1+2」の形式或いは“V 起来”で表す。また、器官レベルに関しては、例文 (102a) の“V 来”を用いない。人間の死ぬことは例文 (103a) の“V 来”構文で表さなく、(103b) の“逐渐”を抜いて、(103c) の“V 去”構文で表すことができる。

- (101) a. 仙人掌 枯萎 了。 b. 仙人掌 开始 枯萎-起-来 了。
 (サボテン 枯れる 了 1+2) (サボテン 始まる 枯れる-起こる-くる 了 1+2)
 「サボテンが枯れてしまった」「サボテンが枯れて始めてきた」
- (102) a. * 肝脏 逐渐 死-来/去 了。 b. 肝脏 逐渐 死亡 了。
 (肝臓 だんだん 死ぬ-くる/いく 了 1+2) (肝臓 だんだん 死ぬ 了 1+2)
 「肝臓がだんだん死んできた/いく」 「肝臓がだんだん死んだ」
- (103) a. * 太郎 逐渐 死-来 了。 b. ? 太郎 逐渐 死-去 了。
 (太郎 だんだん 死ぬ-くる 了 1+2) (太郎 だんだん 死ぬ-いく 了 1+2)
 (意味: 太郎が、だんだん死んできた) (意味: 太郎が、だんだん死んでいった)
- c. 太郎 死-去 了。
 (太郎 死ぬ-いく 了 1+2)
 「太郎が死んでしまった」

4.2.1 始動アスペクト

まず、坂原 (1995: 130) によれば、始動アスペクトは、例文 (104) のように、変化の完結を含意する「完全に」などの程度副詞とは共起しにくい。(105) のように、変化の開始時点を表す時間副詞とは共起するが、(106) のように、継続の終止時点(「～まで」)、変化の限界時点(「～までに、～以前に」)の時間副詞とは共起しない。

- (104) ?? 空が完全に明るくなって来た。 (坂原 1995: 130 例 (138))
 (105) 空が、20分前から明るくなって来た。 (坂原 1995: 130 例 (139))
 (106) a. * 空が、10分前まで明るくなって来た。
 b. * 空が、10分前までに明るくなって来た。

これに対し、中国語の始動アスペクトを表す“V 起来”構文は、例文 (107) のように、変化の完結を含意する“完全”「完全に」という程度副詞とは共起できる。(108) のように、変化の開始時点を表す時間副詞とは共起するが、(109) のように、変化の限界時点“在…前”「～前に」の時間副詞とは共起できる。

(107) 天空 完全 亮-起-来 了。
 (空 完全に 光る-起こる-くる 了 1+2)
 「空が完全に明るくなった」

(108) 天空 从 20 分钟 前 开始 亮 了 起-来。
 (空 から 20 分 前 始まる 光る 了 1 起こる-くる)
 「空が、20分前から明るくなり始めた」

(109) 天空 在 10 分钟 前 亮-起-来 了。
 (空 PREP 10 分 前 光る-起こる-くる 了 1+2)
 「空が、10分前に明るくなった」

さらに、坂原 (1995: 130) では、「来る」による始動アスペクトでは、変化の生起は現在以降でよい」と指摘している。一方、中国語では、例文 (111) のように、未来の変化を表すには、“会”という助動詞がないと、成り立たない。

(110) 1 時間もすれば、空も晴れて来る。

(111) a. * 再 过 一 小时, 天空 晴朗-起-来。
 (また 過ごす 一 時間 空 晴れる-起こる-くる)
 (意味: 1 時間もすれば、空も晴れて来る)

b. 再 过 一 小时, 天空 会 晴朗-起-来。
 (また 過ごす 一 時間 空 助動詞 晴れる-起こる-くる)
 「1 時間もすれば、空も晴れて来るだろう」

庵他 (2000: 120-121) では、「増える、変わる、(雪が)解ける」など変化動詞と共に「～てくる・～ていく」を用いると、段階的な意味が出てきます」と述べている。一方、中国語では、例文 (113) のように、“V 下来”構文を使わず、V₁だけで或いは“V 下去”構文で表す。

(112) 太陽が出たので、だんだん雪が{解けてきた/?解けた}。(庵他 2000: 121 例(3))

(113) 太阳 出来 了, 雪 渐渐 { *融化-下-来/融化/融化-下-去 } 了。
 (太陽 出て来る 了 2 雪 徐々 解ける-下がる-くる/解ける/解ける-下がる-いく 了 2)
 「太陽が出てきて、雪は徐々に溶けていった」

次に、感情表現については、坂原 (1995: 133) では、「話し手の感情の変化は未来の事件だけでなく、過去の事件でも制約されることがある」と述べ、「話し手の感情が他人に関係するときは、話し手から目標となる対象への感情の移動があるかのような概念化が行われる。話し手は感情の起点で自分自身に共感視点をおくので、感情は自分から離れて行く移動物と見なされる。この移動が、時間軸に投影される場合、話し手は自分を変化の起点におき、未来に向けた姿勢で変化を捉える。一方、「来る」は、話し手は変化を未来にある変化の終止点から逆方向に見るように強制する」と主張している。したがって、事件を捉える視線の首尾一貫性が崩れ、例文 (114b)(115b) は不自然になる。

(114) a. 太郎はだんだん私を見放して来た。 (坂原 1995: 133 例 (152a))

b. * 私は、だんだん太郎を見放して来た。 (坂原 1995: 133 例 (152b))

(115) a. 太郎はだんだん私に愛想をつかして来た。 (坂原 1995: 133 例 (153a))

b. * 私は、だんだん太郎に愛想をつかして来た。 (坂原 1995: 133 例 (153b))

一方、中国語では、例文 (116) のように、“V 来” 構文を用いず、話し手が主語になっても文が成り立つ場合がある。が、例文 (117) の“V 起来” 構文で表す場合もある。

(116) a. 太郎 逐渐 放弃 了 我。 b. 我 逐渐 放弃 了 太郎。

(太郎 段々 見放す 了 1 1SG) (1SG 段々 見放す 了 1 太郎)

「太郎はだんだん私を見放した」 「私はだんだん太郎を見放した」

(117) a. 太郎 对 我 逐渐 厌倦-起-来 了。

(太郎 PREP 1SG 段々 飽きる-起きる-くる 了 1+2)

「太郎は段々私に愛想をつかして来た」

b. 我 对 太郎 逐渐 厌倦-起-来 了。

(1SG PREP 太郎 段々 飽きる-起きる-くる 了 1+2)

「私は段々太郎に飽きて来た」

さらに、坂原 (1995: 133) では、「感情でも、他人が関係せず、方向性のないものは、話し手が主語であっても構わない」と述べ、「この場合も未来の変化に使えない」と主張している。

(118) 私は、このゲームにだんだん飽きて来た。(坂原 1995: 133 例 (154))

(119) * しばらくすれば、私もこのゲームに飽きて来る。(坂原 1995: 133 例 (155))

一方、中国語では、“V 起来”は未来の変化には使えるが、推測の意味を表す“会…吧”を付け加えると自然である。

(120) 我 渐渐 对 这 个 游戏 厌倦-起-来 了。

(ISG 段々 PREP DEM CL ゲーム 飽きる-起きる-くる 了 1+2)

「私はこのゲームにだんだん飽きて来た」

(121) 一 段 时 间 后, 我 会 对 这 个 游戏 厌倦-起-来 吧。

(一 CL 時間 後 ISG 助動詞 PREP DEM CL ゲーム 飽きる-起きる-くる 語気)

「しばらくすれば、私はこのゲームに飽きて来るだろう」

4.2.2 継続アスペクト

坂原 (1995: 136) によれば、「くる」が継続アスペクトに解釈されるのは、 V_1 が同じ状態の継続か、同じタイプの事件の繰り返しによる質の変化のない継続を表す場合である。例文 (122) のように継続の開始時点、継続期間の時間副詞とは共起する。また、例文 (123) の「現在まで」は実際には事件の完結を表さず、事件は継続中ということになり、最もよい。さらに、継続アスペクト「V てきた」は、過去のある時点から現在までの継続を表し、事件は、通常は、現在でも進行中である。タ形に加えて、テイル形も使われる。

(122) 太郎は、戦後から、30 年間、東京で暮らして来た。(坂原 1995: 136 例 (172))

(123) 太郎は、戦後から、現在まで、東京で暮らして来た。(坂原 1995: 136 例 (173))

(124) 太郎は、戦後からずっと東京で暮らして来ている。(坂原 1995: 137 例 (174))

これに対し、中国語では、例文 (125) のように、 V_1 は“生活”「暮らす」の場合、“V 来”構文を用いず、“一直”「ずっと」という過去から現在を表す副詞が使われる。事件は、現在でも進行中であるかどうかは判断しにくい。

(125) 太郎 从 战后 到 现在 一直 生活 在 东京。

(太郎 から 戦後 まで 現在 ずっと 暮らす で 東京)

「太郎は、戦後から、現在まで、東京で暮らして来た」

4.3 非恩恵

古賀 (2008: 253-254) では、例文 (126)(127) のように、「てくる」を使った逆行構文の事象は、話者が予期していなかったものであり、よって、話者はその事象によって悪い影響を被ることが多い。「突然」、「急に」、「いきなり」といった、意外さ、唐突さを表す副詞と頻繁に共起するのは、そのためである。一方、「てくれる」を使った逆行構文の事象、常に話者に肯定的な影響を及ぼすものである…(中略)「てくる」は中立/受害逆行標識、「てくれる」は受益逆行標識と考えられる」と主張していて、例文 (128) のように、「やさしくする」という事象は、それ自体肯定的な意味を持つにもかかわらず、「てくる」を使った逆行構文には、ケンに下心があるかのようなニュアンスが感じられ、意外さ、話者の迷惑が感じとれる」と指摘している。

(126) 知りたくもないのに、突然ケンは私に電話番号を {教えてきた/??教えてくれた}。
(古賀 2008: 253 例(19))

(127) 頼んだら、ケンは私に電話番号を {?教えてきた/教えてくれた}。
(古賀 2008: 254 例(20))

(128) ケンが {やさしくしてきた/やさしくしてくれた}。 (古賀 2008: 254 例(21))

坂原 (1995) では、「来る」は話し手に対する受益・被害を表わし、比喩的な授与、移動を作り出すことができる。話し手は、ある行動の影響を被る受益者(benefactive)あるいは受害者(malefactive)と見なされる」と述べている。

(129) 太郎が、契約を破棄して来た⁵。 (坂原 1995: 125 例 (95))

(130) 大家が、家賃を値上げして来た。 (坂原 1995: 125 例 (96))

(131) 会社が、給料を半分に減らして来た。 (坂原 1995: 125 例 (97))

これに対し、中国語では例文 (132) のように、“来 V” 構文を用いて、“打破交易”「取引を破棄する」は“来”の目的を表す。“来”と“打破交易”「取引を破棄する」が行為の発生順に並ぶ。

(132) 太郎 来 打破 了 交易。
(太郎 くる 破棄 了 1 取引)
「太郎は取引を破棄しにきた」

⁵ 坂原 (1995: 125) によれば、V₁は意志的行為であるので、大概、継起用法の移動のある解釈も可能である。例えば、この例文については「太郎は契約を破棄しに行き、帰って来た」の解釈もできる。

- (133) 房东 来 提高 了 房租。
 (大家 くる 値上げる 了1 家賃)
 「大家が家賃を値上げしに来た」

なお、今仁 (1990: 58) によれば、移動対象としては、目に見えないものの波及や当事者に及ぶ何らかの影響(被害、苦痛、喜び、驚きなど)も含まれる。

- (134) 後ろの車がクラクションを鳴らしてきた。

(今仁 1990: 58 例(31))

- (135) 先方が、さっき文句を言ってきました。

(今仁 1990: 58 例(32))

「攻撃する、襲う、殴る、殺す、征服する、壊す」など、行為が相手に向けられる動詞は移動用法に属する。「殺す、殴る、征服する」のように、相手に向けられる行為の結果を表す瞬間動詞である。この種の動詞には「てくる」は用いられにくいのは、対象(影響)が移動する余地がないことによる。が、「ていく」は事態の順次・漸次性が出て、瞬間動詞と結合しても文法性が落ちない。一方、中国語は例文 (141)-(143) のように、“V 来”“V 去”構文で表さない場合があり、例文 (141) の“来 V” 構文や例文 (144) の“V 过来” 構文で表す場合がある。

- (136) * 友達が、私を殺してきた。 (今仁 1990: 59 例(38))

- (137) ?? 友達が、殴ってきた。 (今仁 1990: 59 例(39))

- (138) 蜂の大群は、蟻塚を襲っていった。 (今仁 1990: 59 例(37))

- (139) コーチは、選手を並ばせて、順に殴っていった。 (今仁 1990: 59 例(41))

- (140) 男は、人質を、一人ずつ殺していった。 (今仁 1990: 59 例(42))

- (141) 朋友 来 杀 我 了。
 (友達 くる 殺す 1SG 了1+2)
 「友達が私を殺しにきた」

- (142) 朋友 朝 我 打 了 过来。
 (友達 PREP 1SG 殴る 了1 近づく-くる)
 「友達に殴られてきた」

- (143) 蜜蜂 袭击 了 蚁穴。
 (蜂 襲う 了1 蟻塚)
 「蜂は、蟻塚を襲った」
- (144) 教练 依次 朝 他们 打 了 过-去。
 (コーチ 順に PREP 彼ら 殴る 了1 近づく-いく)
 「コーチは彼らを順に殴っていった」
- (145) 这 名 男子 逐一 杀死 了 人质。
 (DEM CL 男性 一つ一つ 殺す-死ぬ 了1 人質)
 「この男は人質を一人ずつ殺した」

5 日中語の移動補助動詞構文の対照とまとめ

本論文の4節の内容を表3でまとめた。表3は日中語の移動補助動詞構文の用法の相違点を示したものである。日中語の移動補助動詞構文において一番大きな違いは、非恩恵の用法である。

[表3] 日中語の移動補助動詞構文の用法

		日本語	中国語	
空間移動	移動用法	一回きりの単発的な事態	V ていく構文で表せない	“V 去”構文で表せる
		V ₁ が「笑う、座る」の場合	V てくる/いく構文で表せない が文法性が高まる場合がある	“V 下来”“V 起来” 構文で表せる
	継起用法	目的地	付けられない	付けられる
		場所副詞と時間副詞	V ₁ を修飾する	判断しにくい
	同時用法	「友達と」の前置詞句を伴う場合	必ず同時に移動する	同時に移動するとは限らない
		移動対象	必ず移動主体と共に移動する	判断しにくい
		V ₁ が「買う」の場合	生起場所の副詞を持てるが、 起点の場所副詞を持ってない	“在”+場所”も“从”+場所”の両方とも使える
	擬似的同	生起場所の副詞	移動対象は持たずにやって来たという事態でも使える	“在”+場所”は“V 来”構文で用いない

	時用法	起点の場所副詞	移動対象を持って移動する可能性がありうる	「“从”+場所」で表す
時間推移		事件の単数性や複数性	複数性しか表さない	両方とも表せる
	V ₁ が「死ぬ」の場合	植物の死	始動アスペクトに解釈される	「V+了 1+2」或いは“V 起来”で表す
		器官レベル	変化の解釈ができる	“V 来”構文を用いない
		人間の死	始動アスペクトで許容できる	“V 去”構文で表す
	始動アスペクト	変化の完結を含意する程度副詞	共起しにくい	共起できる
		継続の終止時点や変化の限界時点の時間副詞	共起しない	共起できる
		変化の生起は現在以降の場合	成立する	未来を表す助動詞“会”がないと、成立しない
		V ₁ が変化動詞の場合	段階的な意味が出る	“V 下来”を使わずV ₁ だけ或いは“V 下去”で表す
		感情表現	過去や未来の事件を表せ、話し手が主語にならない	過去:“V 来”を用いず、“V 起来”で表す。話し手が主語になれる 未来: “V 起来” で表し、推測の意味を表す“会...吧”を付け加える
		継続アスペクト	継続の開始時点、継続期間の時間副詞とは共起する。「V てきた」は現在でも進行中である	“一直”「ずっと」の副詞が使われる。事件は現在でも進行中であるかどうかは判断しにくい
	非恩恵	話者はその事象によって悪い影響を被ることが多い	“V 来/去”で表さなく、“来V”や“V 过来”構文で表す	

出典

本稿において使用されている例文の中では、出典が明示されていない例文は筆者の作例である。コーパス資料として、次の 1 つを用いた。

BCCWJ 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』

略語

CL:助数詞、DEM:指示詞、GEN:“的”「の」、NEG:否定、PREP:前置詞、SG:単数、V:述語動詞、 V_1 :前項動詞、 V_2 :後項動詞、了 1:動詞の後に置き、動作行為の完成或いは実現を表す、了 2:事柄の完成や新しい事態の発生を確認する働きをする、了 1+2:“了 1”と“了 2”の役割を兼ね備えた働き、ある動作 V を行った状態に今になっているというような状況を表す

参考文献

日本語で書かれた参考文献

荒川 清秀 (2015) 『動詞を中心にした中国語文法論集』 白帝社.

庵 功雄・高梨 信乃・中西 久実子・山田 敏弘 (2000) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』 スリーエーネットワーク.

今仁 生美 (1990) 「V テクルと V テイクについて」『日本語学』 9(5).54-66.明治書院.

Otsuka Hiroko (2019) 「日本語ヴォイス構文の指標的機能と話者の選択」『JAPANEDU:Jurnal Pendidikan dan Pengajaran Bahasa Jepang』 (4)2.64-73.

近藤 泰弘 (1984) 「補助動詞『てゆく』『てくる』の用法-<視点の補助動詞>研究序説-」『日本女子大学紀要』 (34).25-34.

古賀 裕章 (2008) 「てくる」のヴォイスに関連する機能」森雄一・西村義樹・山田進・米山三明(編)『ことばのダイナミズム』 くろしお出版.241-257.

坂原 茂 (1995) 「複合動詞 V て来る」『Language, Information, and Text』 2(01):109-143.

朱 茜 (2018) 「現代中国語の 2 種類の複雑述語“来 V”構文と“V 来”構文の相違点」日本言語学会第 157 回大会予稿集.22-27.

杉村 博文 (2000) 「“走进来”について」『荒屋勤教授古希記念中国語論集』 151-164.白帝社.

住田 哲郎 (2011) 「移動動詞『来る』の文法化とヴォイス機能」神戸大学博士学位論文.

趙 蓉俊子 (2020) 『日中語における授受動詞・移動動詞の対照研究:補助動詞としての用法を中心に』新潟大学修士論文.

筒井 佐代 (2019) 「感情表現としての補助動詞の考察: V-テクルを例に」『外国語教育のフロンティア』 (3).127-141.

- ドルヌ・フランス (1987) 「『行ってきます』—日仏対照研究の一樣相—」『日本語学』(6)10.40-48.
- 日本語記述文法研究会 (編) (2009) 『現代日本語文法 2 第3 部格と構文 第4 部ヴォイス』くろしお出版.
- 浜田 真理子 (1989) 「『行く/来る』と『～ていく/～てくる』の意味の繋がり」『Sophia Linguistica : Working Papers in Linguistics』(27).47-56.
- 益岡 隆志 (1997) 『新日本語文法選書 2 複文』くろしお出版.
- 丸尾 誠 (2005) 『現代中国語の空間移動表現に関する研究』白帝社.
- 丸尾 誠 (2010) 『基礎から発展まで よくわかる中国語文法』アスク出版.
- 丸尾 誠 (2019) 「中国語の動補フレーズの日本語訳について」張麟声(編)『中文日訳の基礎的研究(一)』日中言語文化出版社.
- 森田 良行 (1994) 『動詞の意味論的文法研究』明治書院.
- 森山 卓郎 (編) (2022) 『あいまい・ぼんやり語辞典』東京堂出版.
- 山本 裕子 (2000) 「『くる』の多義構造-『くる』と『～てくる』の意味のつながり」『日本語教育』日本語教育学会(105).11-20.
- 山本 裕子 (2007) 「主観性の指標としての『～テイク』『～テクル』」『人文学部研究論集 = Journal of the College of Humanities』中部大学人文学部(編).(17)67-81.
- ラマール・クリスティーヌ (2008) 「中国語の位置変化文とヴォイス」『ヴォイスの対照研究-東アジア諸語からの視点』109-142.
- Lamarre, Christine (2017) 「中国語の移動表現」松本 曜(編)『移動表現の類型論』95-128. くろしお出版.

中国語で書かれた参考文献

- 範 立珂 (2012) 《“V 走” 和 “V 去” 的替换条件及其认知理据》(“V 来” と “V 到” との置き換え条件及び形成) 《汉语学习》第 1 期.104-112.